

3号機水素爆発

第1原発・建屋吹き飛ばす

格納容器損傷なしか

保安院 半径20キロで屋内退避

経済産業省原子力安全・保安院によると、14日午前11時すぎ、東京電力福島第1原発3号機で水素爆発が発生した。東電によると、原子炉圧力容器や原子炉格納容器が健全だと確認した。枝野幸男官房長官は「放射性物質が大量に飛び散っている可能性は低い」と述べた。保安院は同原発から半径20キロ以内の約6000人に屋内退避を呼び掛けた。周辺では南から北に約1筋の風が吹いているという。東電によると、6人の負傷者がいる。

作業員ら6人けが

3号機では原子炉の水位が低下し炉心の燃料の一部が露出、溶融し、水素爆発の危険性が指摘されていた。1号機では12日に水素爆発が発生、原子炉建屋上部が吹き飛んだ。東電は14日、1号機と3号機で、炉心を冷やすための海水注入を続行。午前1時すぎ、海水をためる水槽の残量が少なくなったため中断。同3時20分に3号機で注入を再開した。その後、3号機の格納容器の圧力が

爆発事故受け県 避難誘導を急ぐ

福島第1原発3号機の爆発事故を受け、県災害対策本部は、国や東電からの報告など情報収集に当たっている。国から避難指示が出された同発電所から半径20キロ圏内の地域では、依然として避難できていない病院の入院患者や介護施設の入所者らが多数いるため、県は避難誘導を急いでいる。

東北太平洋沖に津波 県が確認

東日本大震災で、県は14日午前11時すぎ、太平洋沖台で約3筋の津波を確認したと明らかにした。岩手県の大船渡沿岸では、自衛隊が5筋の潮位変動を確認。沿岸の自治体は津波の恐れがあるとして、高所への退避を呼び掛けた。気象庁は津波や引き潮を把握していないとしている。



水素爆発直後の福島第一原発
午前11時1分ごろ

新地町の沖合いで
3mの津波
FCT-NEWS

水素爆発した福島第一原発14日午前11時すぎ
(福島中央テレビから)